

CELULAS



ピアザ
NPO法人 多言語広場セルラス

2018
Vol. 11

世界に通じる人材の育成をめざして

CONTENTS

P.2-3 新企画紹介

リートレピアザ
プロジェクトスタッフ

P.4-5 0と1の違い

みんなの声を聞いてみよう！

P.6 お父さんメンバーの声

P.7 世界のレシピ

作ってみよう！
エマニュエルさん@ガーナの
Nkakra(スープ)とNkatie(ピーナッツケーキ)

メキシコのお友達へ

P.8 多言語活動フォーラム報告 INFORMATION

NPO法人 多言語広場CELULASは、多言語習得活動を基盤として、世界に通じる人材育成の環境作りを目的とし
2002年に内閣府の認証を得て設立された東京都所轄の特定非営利活動法人です。

2018年から始まった
2つの新企画を紹介します!

1. 誕生! 中高生のための リートレピアザ



リートレ生の名札。ストラップには
I would be a leader of the world!
のメッセージ入り(^^♪

セルラスで行われるリーダーズトレーニングキャンプに参加できる中高生年代を、セルラスでは、「リートレ生」と呼んでいます。そのリートレ生が集まって自分たちで企画と運営を考え、活動をする場がリートレピアザです。今年度から、関西と関東でそれぞれ、月1回のペースで活動しています。普段はピアザに少しずついる中高生が、地域や学校の枠を越えて、お互いに刺激しあい切磋琢磨しながら、多言語習得とリーダーシップ養成を目指します。



リートレ生の声
Jr.リーダーに
インタビューしました!



下北沢(水)ピアザ
和田たま子 (高1)



梅田ピアザ
辻川慧成 (中2)

Q1 リートレピアザはあなたにとって、どんなところですか?



自分たち次第で、すごく有意義なものになるかどうかが決まってくところが難しいけど、楽しいです。自分たちがやりたいことをできるので、やりがいがあると思います。



みんな同世代なので、何もためらわず思ったことをすぐ言い合えて、いろんな発見ができるので、毎回行くたびにパワーアップさせてもらえます。次はどんな発見が出来るか、楽しみです。



Q3 リートレ生への、呼びかけをお願いします!



みんなそれぞれほんとに、忙しいと思います。でも、Jr.リーダーである私たちだけじゃなくて、リートレ生のみんなが、同じようにアイデアを持ち寄れば、すごく楽しくなるんじゃないかと思います! そんなに重く考えずにぜひ、参加してください!



いつものピアザとは少し違います!!
キャンプのような楽しさが味わえます!!
毎回行くたびに自分をパワーアップさせてくれるはず!!
自分たちの思い描く、ピアザの最先端をみんなで一緒に作りませんか?

Q2 これからリートレピアザで、やってみたいことはありますか?



私たちリートレ生が考えたことを自分たちで創りあげ、セルラス全体に発信するという体験を、みんなで積んでいきたいです。野望は、何か大きなことを考え出したいです! その力をつけていく為に、もっとディスカッションや多言語活動をしていきたいです。



各ピアザのことを発表していき、悩み事があれば全員で相談しあい、いいと思ったピアザのことを自分のピアザに持ち帰り、真似するというようなことが出来たらいいと思います。また、今は司会をJr.リーダーがしていますが、そのうちJr.リーダーとか関係なく、リートレ生で司会を回せるようにしたいです。

みんなで創ろう!
リートレ生のための
リートレ生による
リートレピアザ!!

2. プロジェクトスタッフ 始動!

プロジェクトスタッフの声

セルラスの大きなプロジェクトを担うボランティアスタッフとして、今年から、メンバーが様々なプロジェクトに作り手として関わることがになりました。今回は、キャンプ・プロジェクトスタッフの声をお届けします!

「キャンプスタッフの熱意に感謝!」

東高円寺ピアザ 水野浩子

(家族構成: 夫 長男高3 長女中1 次男小3)

準備編

今年小学3年生になった息子がキャンプに初参加。とにかく魅力的なキャンプだと言う事は青少年の報告を聞いて分かっていたのですが、どんなキャンプなのだろうか? 何はともあれ大がかりなイベントには間違いないさそうなので、軽いお手伝いの気持ちでプロジェクトスタッフに手を挙げてみました。

とにかく驚いたのはスタッフの並々ならぬ「準備」への熱意です。一に準備、二に準備…子供、留学生、保護者、全てに対して手を抜く事のない大人の本気の準備でした。

特に印象に残っているのは初めて事務所を訪れた時。ステキなエントランスから絨毯の廊下を歩き、事務所の扉を開けると視界に飛び込んできたのは、それとは真逆の嵐の様にゴった返した風景でした。



いつも面白くて笑顔の素敵なスタッフやコーディネーター達が、PCに無言で張り付いたり、必死で大きなダンボールを運んだり、普段は見ることのない姿をみて、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

プロジェクトスタッフになって、裏側を知れた事は親として安心する材料にもなりましたが、それだけではなく、スタッフの一員として力になれた喜びや、留学生たちの努力を間近で見て尊敬や親心のような情も湧きました。そして、何よりも参加した子ども達が元気に帰ってきた姿を見た嬉しさはこの上ないもので、改めてセルラスの青少年育成の本気度を知りました。この夏は、良い経験ができました!

「初めてのサマーキャンプで花開く!」

梅田ピアザ 城口直子 (家族構成: 夫・長男中2)

開花編

毎年、夏のキャンプに参加した子供たちが生き生きと報告する姿を見て、4日間のキャンプで何を体験し、なぜ変化するのか、いつも気になっていました。今年は保護者もプロジェクトスタッフとしてキャンプに参加できると聞き、私の好奇心がむくむくと膨らみ、思い切って手を挙げました。

事前に伝えられたのは、親の立場で子供たちを温かく見守ってほしいということでした。同じグループの子供たちと意見を交わしたり、時には子供たちの行動を外から見守ったり、私は自分の立ち位置に戸惑いながら、でも迷う時間も無く、目の前のことに取り組む毎日でした。

子供たちはどうでしょう。最初は家族と離れ心細くて泣いたり、体調を崩したり、自分の意見をなかなか言えない子供たちもいましたが、次第に今の状況で出来ることを探し、行動する姿をあちこちで見かけました。食事中にお茶をこぼしても、自分で雑巾を取りに行き片付けをした子、さっと手を挙げて思いや意見を皆の前で発言する子、彼らの堂々とした姿は、変化ではなく、開花なのかもしれないと思いました。

何も無いところからは何も生まれません。日々の生活やピアザで培われてきた力が、キャンプという特殊な環境の中で、チャレンジする勇気を持ち、行動し、新たな課題を見つけ、子供たちが自分でも気がつかなかった自分自身を発見するのかもしれない。



開花する環境は子供たちだけでは作れません。コーディネーターやスタッフの、キャンプに向けての様々な準備や細やかな配慮、外から見えない部分での働きがあるからこそ、このキャンプは成立するのです。準備会から一人一人の子供たちに寄り添い、時にはJr.リーダーや留学生たちの悩みを一緒に考える大人の姿勢には本当に頭が下がります。

Jr.リーダーや留学生達が、求められる期待に応えようとひたむきに取り組む姿も印象に残りました。楽しいだけのキャンプではないのです。悩み、気付き、喜び、色々な感情が4日間という短い時間の中に凝縮してそれぞれのキャンプを体験します。私自身、楽な4日間ではありませんでした。でも、楽しかった。日が経つにつれてじわじわと身体中に広がってゆく、そんな楽しさでした。

そして、私のキャンプはまだ終わりませんでした。夏の報告会でキャンプの感想を発表する機会を頂き、いつものように原稿を作り始めたのですが、あれも

これもと内容が毎日変わるので、途中で原稿作りを止めました。当日は意外にも緊張せず、伝えたいことがすらすらと言葉に出てきました。一番驚いたのは、聴いてくれる人の、そして? それから? という、聞こえない声を感じたことです。言葉が伝わるってこういうことなのか、と初めて感じました。キャンプに参加した私の開花!? かもしれません。

0と1の違い

セルラスの多言語活動を始めることで、劇的に変化することがあります。それは今まで感じたことのなかった価値観や視点の広がり、柔軟な思考など、単にプラス**1**ではなく、なかった**0**の世界が、新しい世界に変化するのです。ともすると何気ない変化で気づきにくいかもしれませんが、でも**0**と**1**とは大違い! 皆で体験を持ち寄って、そんな大切な自分の中の“**1**”をいっしょに見つけていきませんか!!

多言語をやっているから!? 英語が近くなる 0と1

友達のところに、オーストラリア人の家族がホームステイに来ていて彼らの歓迎会に参加した。入会して3か月だけど、友人と彼らの子供が話している英語が簡単に聞こえて、これくらいなら私も話せると思った。そんな自分にびっくり!

藤田郁美

世界が広がった 0と1

韓国にホームステイなんて想像したことなかったけれど、仲間のホームステイ交流やその報告を聞くうちに、韓国に行く自分がイメージできるように、準備を始めた!

山本知美

中学で職業体験の報告会があった。報告する人はみんな紙を持って読んでいた。僕は、突然発言することになったけれど、自分の感じた事や思ったことを、みんなの顔を見ながら話した。それがセルラスでは当たり前のことだから。

中2 リク

セルラスで活動していく中で「違い=間違い」ではない! と気づけた。考えや意見が違って相手も自分も「間違い」ではなく、むしろ違う意見を新しい発見と捉えられるようになった。

田上美紀

変わった自分 0と1

道で困っている外国人にすぐに話しかけられるようになった。どれだけ言えるとか関係なく、無意識に頭より体とことばが先に動いてる感じで、とにかく伝えることができるようになった。

舟川 忍

英語が話せないと自分で壁を作っていたので、話そうとも思っていなかった。セルラスに参加して、正しく話そうとするのではなく人に伝えることが大事だと思うようになった。先日、フィリピンの人に会う機会があり、自分のありったけの英語で伝えることができた。何も困らなかった。ホームステイに行った子供たちが「何も困らなかった」と報告するのと同じだと思った。

吉屋智子

ロシア人のアニータにロシア語であいさつをしたら、「ロシア人のようなロシア語の音ですね。どうしてそんな音で話せますか?」と驚かれた。自分のロシア語がそんなにきれいな音で言えてるなんて、びっくりした。

小6 船田諒太

音を知ってる 0と1

ピアザの帰り道、バルセロナ出身の熟年ご夫婦とお話をするチャンスが到来! すかさず ¡Hola! が口から出て来て、「家の案内・メキシコ編」に出てくるスペイン語の自己紹介をしていた。ロールプレイしている場面が身振り手振りを交えてスルーと言えた。その後も会話の中で知ってる音がたくさん聞こえ、楽しく幸せな一期一会となった。

福永洋子

テレビで何語か聞こえて来た時に「あっ! OO語だ。あっ! 知っている音が聞こえた。」と楽しんで聞くようになった。

溝のロピアザメンバー
(みんなの声)

街で聞える外国語が、どの言語なのかわかるようになった。話し声に反応して笑顔を向けてしまうし、話しかけたいくなる。

村瀬絹子

多言語をやるようになって、いろんな人、いろんな言葉に興味が持てるようになった。ヒジャブをかぶっている人に、以前は近寄れなかったけど、今は普通に一緒にいれる。

小5 舟川月乃

人と向き合う 0と1

セルラスに入って海外の方に対する偏見が無くなり、同じ人間と感じられるようになった。仕事で、以前は海外からのお客様を避けていたが、今ではいろいろな国の方と接することが面白いと思えるようになった。

長沼啓之



「0と1とでは大違い!」

渋谷ピアザ 原 久美子



私は、現在新宿区管轄の日本語教師ボランティアを週に3回ほどしています。退職してから、9年ほどボランティアを続けて来ましたが、最近新宿区は方針が大きく変わってきています。特に初心者向けには、文法や文字は教えず、耳からことばをシャワーのように浴び、2人で会話のやり取りをしたり、ロールプレイをしたりなど、少しずつセルラスに近づいてきているかのようです(笑)

今**私たちの教室**では、8人のボランティアの先生が2人ずつ組んで、日本に来たばかりの外国の方たちに日本語を教えているのですが、そんな中で、自分が他の先生たちと全然違うスタンスを持っていることに気づく事があります。

例えばそれは、私たちの教室に、60代後半の中国人夫婦が入ってきた時のことです。娘さんが日本人と結婚し、初孫が生まれたので、その面倒を見るために半年間日本に来たご夫婦です。日本語は全く話せません。そしていくら教えても、その夫婦は何も覚えられないのです。例えば同じグループの20代のベトナム青年は、果物のイラストを9つ見せて1回で全部覚えてしまうところを、何度やっても1つも覚えることができませんでした。年齢を差し引いても、もの覚えが悪すぎです(^_^;

何度かその教室を続ける中、ボランティアの先生たちは、口々に「もういやです!」「私はあの夫婦には教えられません」「お手上げです…」「せめて英語が少しでもできればわかってもらえるのに…」と言ながら、困った表情をしていました。

でも私は全く違う感想でした。このご夫婦とのやりとりがすごく面白かったのです。なぜかという、少しの中国語を投げかけると、すごくホッとしたようで、ニコツと笑い、「ヘンハオ!」と言ってくれたりして、すごく喜ばれるからです。私は嬉々として、彼らの担当を続けました。

初級クラスは、日本語がほとんどわからないベトナム人、ミャンマー人、ネパール人が来ていて、他のボランティアの先生たちは結構苦労しているけど、セルラスで多言語をしている私は、こんなにラッキーなことはない! と思えるのです。いつの間にかどの国のことばにも興味がわき、「こんにちば」や「ありがとう」を教えてもらって、次の回で使ってみるとすごく喜んでくれます。そして一気に心を開いてくれる気がします。そんなときが、ことばはほんのちょっとでも、「0と1は全然違う」と思う瞬間です。

5カ月(20回)のコースが終了した後、驚くことがおきました。中国人夫婦のお嬢さんから電話があり、「両親が日本語が話せるようになりました。ありがとうございました!」とお礼を言われたのです。彼らは、繰り返しやった自己紹介だけはできるようになり、あとはいくつかの単語を覚えたのみなのですが、おそらく、自分たちにとって遠い日本語を覚えるのではなく、私と向き合ってやり取りしながら人間のことばをわかって、伝えようとする姿勢ができたのだと思います。だからすごく想像力が働かせられるようになり、それが娘さんにとっては、日本語でコミュニケーションを取れているように感じたのだと思いました。

きっとこれからあの中国人のご夫婦は、「日本で育っていく孫と、日本語で会話できるようになりたい!」という強力な必然性にも後押しされて、残りの滞在期間は積極的に日本人と話をし、どんどんうまくなっていく予感がします。このご夫婦にとって、人とコミュニケーションをする基盤(相手をわかって、伝えようとする姿勢)ができたことが、質的な0から1への変化なのだと思います。



留学生と一緒に

今回日本語を教えながら、セルラスをやっている意味をとて実感できるようになりました。「人と一緒に」「人と向き合い」そして、ことばはメロディとリズムが大事! なので、この夏は今までになく(?) CDをいっぱいシャドウイングして、ピアザでやっている中国語の場面は丸々言えるようになりました。

60代後半の私だってやればできるし、こんなにいろいろ発見して成長しているのですから、ともすると、普段何もしないでピアザに出かけてしまいがちなのはもったいないなと思います。特に、子供のために通っているお母さんメンバーにも、ぜひ自分のために私たちと一緒にことばを楽しんで、自分自身の成長を感じ取ってほしいと願っています。きっとすぐにできると思います。



お父さんメンバーの声

海老名ピアザ 船田雄亮
勤務先 鉄道会社勤務
家族構成 妻・長男(小6)
次男(小5)・長女(年中)

入会のきっかけ

子供が学校からもらってきたチラシを見たことです。「国際化を見据えて多言語に触れる機会をもてる」、「コミュニケーション能力を養うことが出来る」といった内容に興味を持ちました。子供たちは引込み思案なところがあったので、多言語よりは、コミュニケーションをいろいろな人(多国籍の人)と取れるようになってほしいと思い、妻と講演会を聞きに行くことにしました。

入会の決め手

体験会であるオープンセルラスには、子供を半ば強引に連れて行きました。あまり細かいことを言わず、「楽しそうなことをやっといそうだから行ってみよう」と連れ出しました。雰囲気や呑まれてしまうかなと心配しましたが、意外なことに、積極的に手を上げて話をしていました。周りの方のサポートのおかげもあり、ピアザの雰囲気や活動内容に興味を持った子供たちが「やりたい」と言ってくれました。

また、子供だけではなく家族ぐるみで活動できる事も魅力の1つでした。

子供の変化

自分の子供はなかなか客観的に見る事が出来ないもので、「変わったか」と言われると、まだよく分かりません。少なくとも、家の中では、今まで通りだと思えます。でも、外では変化している部分も感じています。先日、小学校で長男がクラブ活動の部長に立候補し、立候補者全員がプレゼンをしたそうです。その後、部員の挙手により長男は部長に選ばれました。部長に立候補をし、さらにみんなの前でプレゼンをするなんて、セルラスに入会する前では考えられなかったことだと思います。次男は、最近では買い物に行くと店員さんに「これはどこにありますか」と迷わず聞きに行きます。今までは「ママ、ママ、これどこ?」と聞いていました。

このように、様々な場面で自分の思ったことを発言できるようになっていることは変化といえるのかなと思います。また、毎回のピアザで年下の子供たちをうまくリードしてまとめている長男の姿を見られるのは、親として大変うれしいですし、同時にメンバーとしてはありがたく感じています。また、次男は小さい子に好かれる性格のようで、打ち解けることで子供たちをまとめることに一役買っています。



今、家族で取組んでいること

今年は家族の目標として、

- ①毎回のピアザで一週間の出来事（嬉しかったこと、やったことなど何でもよい）を何語でもいいからプレゼンする
- ②他のピアザに行くを上げています。



プレゼンは、入会のきっかけでも書いたように、物おしせずに自分の意見を何でも言える人になって欲しいという思いがあり、目標にしました。毎回ピアザの最初に発表する時間を作り、思っていることや感じたことを自分の言葉で発表することをしてほしいと思っています。（気分によっては嫌がり、やらないこともあります…）

他のピアザとの交流

また、他のピアザに行くことで、海老名ピアザにはない刺激を受けてほしいと思っています。一度、横浜ピアザにお邪魔した時、自分たちよりも年上の中高生と活動したことは長男や次男にとっては新鮮だったようで、楽しかったといっていました。また行きたいともっています。さらに、夏休みにも、家族旅行を兼ねて大阪の梅田ピアザにもお邪魔しました。サマーキャンプに参加する関西メンバーと事前に交流を図れたことで、キャンプに向けて気分を盛り上げることができたようです。

メンバーのお父さんに向けて

周りが子供とお母さん方だけの中で、こういった立ち位置でピアザに臨めばいいのか、少し戸惑うこともあります。今は少し後ろで、みんなの様子を伺いながら、出来ることをやっているという感じです。「男1人で肩身が狭いな〜」と思うこともありますが、海老名ピアザでも厚木ピアザでも温かく受け入れてくれて感謝しています。他のお父さんメンバーの皆さんはどういった感じでピアザに参加しているのでしょうか。ぜひ機会があれば、お父さんメンバーとの交流の場を持ち、アドバイスをもらいたいと思います。



作ってみよう！ エマニュエルさんのNkakra(スープ)とNkatie(ピーナッツケーキ)

@ガーナ！



体が温まる
旨味たっぷりのスープ
です。風邪
気味の時にも
おススメ
です！

Nkakraスープ

<材料> 4人分

- ・ニンニク：ひとかけ
- ・ピーマン：2個
- ・ショウガ：5mm厚さ1切れ
- ・塩：ひとつまみ
- ・鶏もも肉：1枚
- ・塩：小さじ1/3
- ・タラ：2〜4切れ
- ・たまねぎ：大1/8切れ
- ・鷹の爪：1〜2本(お好みで)
- ・トマト：1個
- ・トマトペースト：大さじ1
- ・水：300cc

ミキサー
でもOK!

<作り方>

- 1.にんにく、ピーマン、ショウガを粗くカットし、塩ひとつまみを加え、ブレンダーでソース状にする。
- 2.鍋に、一口大に切った鶏もも肉をいれ、塩小さじ1/3と上のピーマンのソースをいれ、ふたをして7分ほど蒸し煮にする。その上にタラをいれてさらに煮る。(小さいお子さんはタラの小骨に注意！)
- 3.別の鍋に水300ccと半分にカットしたたまねぎ、鷹の爪とトマトを1個まるごと入れ沸騰させる。トマトがある程度柔らかくなれば(10分弱)材料を一旦取り出し、カットしてすりつぶす。
- 4.鶏肉のなべに、3のすりつぶした材料と、それを煮たスープもいれ、トマトペーストも加える。
- 5.中火で約30分煮て(アクは取らない)、まわりに油の輪ができればできあがり。塩加減はお好みで。パンと一緒にどうぞ。

ミキサー
でもOK!
やけどに
気をつけ
てね!



すり鉢とすりこぎの
ガーナ版!!
ヤバとタブリ
これで何でも上手に
つぶしていきます!



Nkatieピーナッツケーキ

<材料>

- ・無塩のローストピーナッツ(皮なし) 1カップ
- ・砂糖 1カップ
- ・水 大さじ2

日を置く方がおいしくなり、
1〜2か月保存ができます。

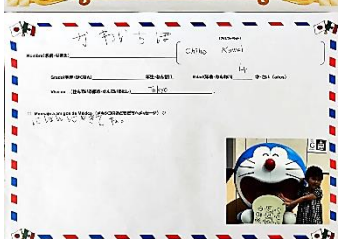
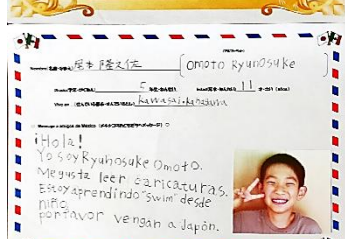
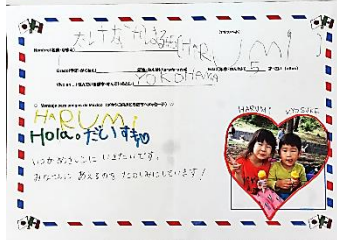
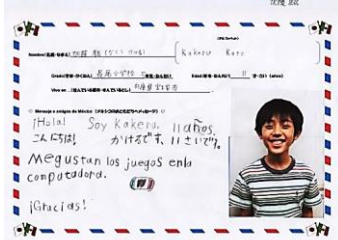
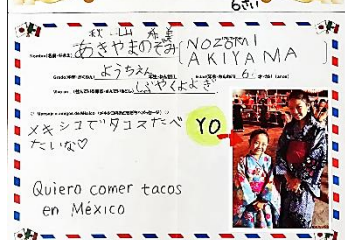
<作り方>

- 1.ローストピーナッツをまな板などに広げ、麺棒で押しつぶすか、ブレンダーでカット(あまり細かくしない)
- 2.砂糖をソースパンに入れ、水を加えて(大さじ2くらい)カラメルみたいな色が少しいたら、ピーナッツを加えてよく混ぜる。
- 3.平らなところ(まな板など)にピーナッツを広げ麺棒を使って伸ばします。
- 4.温かいうちに切れ目をいれてから冷まして固めます。



メキシコのお友達へ!

2018.10.27~11.4の間、メキシコの私立学校 コレヒオ ムンドフェリスとの交流がありました。メンバーの子供たちが、メキシコのお友達に向けて、日本文化を紹介する絵とメッセージを心を込めて書き、交流メンバーによって、大切に届けられました。その一部をご紹介します!



NPO法人多言語広場セルラス 多言語活動フォーラム報告

2018年10月6日(土)～8日(月・祝)の2泊3日、滋賀県高島市の琵琶湖のほとりにて、多言語活動フォーラムを開催しました。3回目の開催となる今年のテーマは、「多言語活動HANPANAITTE! 徹底検証!」でした。

コーディネーターが中心となり、メンバー、Jr.リーダーと一緒に、私たちの活動の基盤となる多言語活動を様々な角度から徹底的に話し合い、検証していきました。

多言語活動(ロールプレイ・ワンマンロールプレイ・シャドウイング・TACO)についての、自分の体験から語るプレゼンテーションタイムや、グループディスカッションタイム、また今年は自炊の施設であった為、TACO(多言語)クッキングという試みで、皆で食事作りも行いました。

盛りだくさんのプログラムでしたが、一つ一つのプログラムに参加者は全力投球! 自分の思い描く多言語活動について、活発に意見交換をし、充実した3日間を過ごす事が出来ました。特にJr.リーダーを含めた中高生たちの多言語活動に対する理解力や行動力の素晴らしさに、セルラスの豊かな未来を感じました。

フォーラムでの収穫は大きく、そのシェアは各ピアザで引き続き行われていますが、今回参加者全員で見つけた「言語場としてのピアザ」を実現するために、まずは12月に行われたフェスティバルに向けて、メンバー全員で多言語活動に取り組みました。来年は、この取り組みを経てピアザが、家族が、自分自身がどう変化していくかを見つめながら、さらに多言語活動を実りあるものにしていきます!



INFORMATION

リーダーズトレーニングキャンプ2019

日時: 2019.3.28(木)～30(土)

場所: 静岡三ヶ日青年の家

対象者: 新中1～大学生

(新小6生飛び級制度有)

オリエンテーション日程:

関西 2019.1.14(月・祝) 関東 2019.1.20(日)

寄稿文&4コマまんが随時募集中!

(詳細は、本部事務局広報プロジェクトチームまで)

セルラスでは、全国各地で様々なイベントを開催中です。

詳しくはセルラス ホームページをご覧ください!

メルマガも随時配信中!



セルラス

検索

発行元

ピアザ セルラス

NPO法人 多言語広場CELULAS

本部事務局

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-23-1 ニュース付対-1038

TEL: 03-5333-8202 (代表) FAX: 03-5333-8203

関西事務所

〒553-0007

大阪府大阪市福島区大開1-10-10

TEL&FAX: 06-7493-7931 (代表)

URL: <http://www.celulas.or.jp>

e-mail: info@celulas.or.jp

セミナリオ2019

日時: 関西 2019.4.14(日) 関東 2019.4.21(日)

※詳細はお問合せ下さい。

= 編集後記 =

「平成最後の…」という言葉が流行っていますが、平成最後のセルラスが実に大きな進化を始めていることに、皆さんお気づきでしょうか? 今回の機関紙は、まさにその進化の特集でした。

「TACOタイム」「リートレピアザ」が始まり、プロジェクトスタッフとして多くの人がセルラスの活動により深く関わり、「自分達で活動を考え創る」という方向に車輪が回り始めているのを感じます。

あるピアザでは、ロールプレイやシャドウイング等の普段の活動について話し合い、「様々な多言語活動は自分達にとって何なのか?」を小4・小5の青少年達が自分の言葉で語り始め、オープンセルラスでそれを伝えるまでになったそうです。

自分が感じていることを言葉にし、それを伝えて楽しめる。言葉っておもしろい!! と思いはじめたら、それはすでに皆さんの「車輪」が0から1に向かって回り始めているのです。

2019年には、フランス語CDが完成します。進化が加速化し始めたセルラスに新言語が加わり、干支のイノシシのように「猪突猛進」ならぬ「チョット猛進」になってみたら面白いかもしれません。



広報プロジェクトチーム一同